

目を覚ましていなさい

(マタイ25・1〜13)

一、マタイによるメッセージ

十人の娘たちのたとえは、マタイの福音書にだけ書かれています。ですから、マタイが語るメッセージじか意味がないと考えてしまいがちですが、そういうことはないと思います。マタイは、福音書を発行するに当たり、当時の教会が抱えていた大きな問題に対する答えを、主イエスが語られたたとえの中に見いだしました。教会が抱えていた問題とは、再臨が遅れていると思われていたことです。教会の指導者たちは、この問題に答えを出さなければなりませんでした。マタイは聖霊に導かれて、かつてキリストが語られたたとえ話に答えを見いだしました。それが、マタイの福音書24章から25章に掛けて記されている一連のメッセージです。

二、十人の娘たちのたとえ

1節をご覧ください。ここで、天の御国は、それぞれともしびを持って花婿を迎えに出る、十人の娘にたとえられることができます。と、主イエスは語られました。たとえ話の背景にあるのは、イエスが幼少期から公生涯に入るまでに過ごされた、ガリラヤのナザレでの

生活です。当時は結婚式も葬儀式も、長々と続けられました。主が語られたたとえは、婚礼の祝宴のことでした。マタイがこの話を取り上げた時の花婿は、キリストです。花嫁は教会です。十人の娘たちは、主イエスが語られて時点においては、ふつうに花嫁の友たちです。ですがマタイは、十人の娘たちを、教会員として捉えているようです。

2節、3節、4節をご覧ください。それぞれの五人は愚かで、五人は賢かった。愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を持って来ていなかった。賢い娘たちは自分のともしびと一緒に、入れ物に油を入れて持っていた。とあります。マタイは、教会の中に愚かな教会員と賢い教会員が現れてくると聴き取ったようです。愚かな教会員とは、主のみこころに対して鈍い教会員です。賢い教会員は、主の語りかけに心を聞いている人です。すなわち、生まれたままの状態の人間の為すことのすべてが主の御意思に適っていないと知り、キリストの恵みがなければ生きることができないと知っている教会員たちです。そのような意味で、愚かな娘たちは、ともしびは持っていましたが入れ物に油を持っていませんでした。賢い娘たちは、自分のともしびと一緒に、入れ物に油を入れて持っていました。ところがです。5節です。花婿が来るのが遅くなったので、娘たちはみな眠くなり寝

入ってしまった。とあります。マタイは主イエスのたとえ話に、再臨が遅れている現状を見ました。愚かな娘たちも賢い娘たちも皆寝入ってしまったというのです。「だから、当時の教会は眠っていた」と受け取る必要はありません。たとえ話は、微に入り細にわたって当てはめようとしますと、おかしなことになってしまいますので、そのようにされない方が良いでしょう。イエスが語られた時点では、聞いた方が様々に思い描ける形で語られたと思われる。

続きを見てまいります。7節、8節、9節です。ここで娘たちはみな起きて、自分のともしびを整えた。愚かな娘たちは賢い娘たちに言った。『私たちのともしびが消えそうなので、あなたがたの油を分けてください。』しかし、賢い娘たちは答えた。『いいえ、分けてあげるのはとても足りません。それより、店に行って自分の分を買ってください。』とあります。賢い娘たちは、すなわち賢い教会員たちは、起きて準備を整えて婚礼の祝宴に向かいました。しかし愚かな娘たちは、すなわち愚かな教会員たちは、ともしびが消えそうなので、油の用意もなかったのです。賢い教会員たちに「油を分けてください」と願ったというのです。ところが、賢い娘たちはそれを断りました。この箇所から「賢い娘たちは、すなわち、賢い教会員たちは何と薄情なことか」と受け止めてしま

いますと、本筋から離れてしまいますので、考えない方がよろしいかと思えます。

続いて、10節、11節、12節をご覧ください。ここで娘たちが買いに行く、その間に花婿が来た。用意ができていた娘たちは彼と一緒に婚礼の祝宴に入り、戸が閉じられた。その後で残りの娘たちも来て、『ご主人様、ご主人様、開けてください』と言った。しかし、主人は答えた。『まことに、あなたがたに言います。私はあなたがたを知りません。』とあります。主イエスが語られたたとえ話を、マタイがそうしたように、すべて再臨に適用しますと、愚かな娘たちは、すなわち愚かな教会員たちは、再臨の時に天に引き上げられないことになってしまいます。こうして、弊害が生まれてくるのも事実です。「イエスキリストを信じて教会に連なっているだけでは再臨の時に引き上げられない。もつと熱心にならなければならぬ」と。そうしますと、キリストを信じるだけで救われるという、福音の中心から逸れてしまう結果になります。

マタイが主イエスのたとえを用いた理由は、13節に書かれています。ここで、目を覚ましていなさい。その日、その時をあなたがたは知らないのですから。と、注意してください。弊害が出てまいりますので、ご注意ください。